

# 風を感じて No. 309

三月を迎えて、春の訪れが待ち遠しい季節となりました。  
皆様いかがお過ごしでしょうか。

編集原誠一、文代

3/1 TEL FAX  
0968-26-4339

2月上旬に、小学校の「生活科「町にんげん」」という授業の一環で、地元の小学校2年生全員が我が家に来られました。息子が米作りや仕事に対する想いをみんなに話した後、子供たちからいくさん質問が出て、みんな一生懸命メモを取っていました。質問タイムが終わると、お待ちかねの「せんべい焼き体験」です。みんな目を輝かせながらせんべい焼きに挑戦し、又、自分で焼いたものは食べてもいい、ということにしていましたので、大喜びでした。

今回は、日差しあって暖かい好天気に恵まれ、私たち受け入れ側もホッとしていた。そして、何よりも子供たちのパワーと純粋さにふれることができ、いくさん元気をもらひ、とても癒されました。  
(後日、数人がせんべいを買ってくれました)



ひな人形--- 古くから、「流しひな」という風習があり、現在も行われている行事があります。ワラや紙の人形で自分の体をなして、人についで悪いものを海や川に流す…つまり、身代わりになつてもらう、というもののです。

又、平安時代には、貴族の子供たちが、人形遊びをするようになりました。これを「ひな遊び」といい、そのうちに、3月3日に人形を贈る習慣も始まりました。人形を枕元において眠ると、災いを取ってくれる、と考えられていました。ひな人形は、「この流しひな」と「ひな遊び」が結びついたもの、といわれ、江戸時代には、今のようなひな壇で飾るようになりました。



そのひな人形を、今年も孫むすめのところに去つて、みんなで飾りつけをしていました。このひな人形は、私の長女の時のものですが、30年以上経つて、こうしてまた飾ることができ嬉しい限りです。



## 日本人の崩食

---誰もが、いつでも、どこでも、食べていいものを食べられる「豊食」の時代を迎えています。しかし、日本人はいつの間にか、食が豊かな状況へ慣れて、食べ物や食事を大切にする、という意識が薄れてきてしまっています。

豊食は、「飽食」へ、そしていまや「崩食」へと変わってしまったのではないか?

人類が誕生してから、ずっと食料不足に悩まされ、どのように食料をやりくりするか、苦労を重ねてきました。そうして中で生まれたのが「好き嫌いをせず、なんでも食べる」とか「ごはんを一粒も残さない」といった、食べることに対する道徳や習慣です。

しかし食が豊かになると人間は食欲の赴くままに食べたり、より目新しい食品を買い求めたりするようになります。おなかが空いても食べるものが「ない…」という経験のない今の子供たちに、「好き嫌いをしない」「残したらもったいない」といった食事のしきりをすることも難しくなりつつある、といえます。

食べすぎによる肥満が増加、生活習慣病が蔓延しています。一方で、忙しさからといって朝食を抜いたり、昼食だけでなく夕食さえも、外食やコンビニに頼る人たちも数多くいます。食が豊かになつてははうなのに、欠食と偏食が共存することによって人々の健康が害されているのです。

日本の食料自給率はずっと低いまま…。そして、無駄に食料を買ひ込んで捨てる、という行為…。食べられるのに捨てられている「食品ロス」…。など、日本がかかる食の問題はとても大きいものです。

「豊食」がもたらした「崩食」…この今までいいはずがありません。自分にとって考え直していく…それがそこから始めていきましょう!

(麦)--- 今年は暖冬の影響で、生育がとても良く、暖かいと、こんなにも違うのかと感じるのはほどです。麦畑には、カラスがでまにやってきて、餌を探しながら歩いています。餌となる生き物は、何もないと思いませんが、麦畑をチョコチョコ歩いている姿は、カラスが「麦踏み」をしているように見えて、思わず「クスクス」となりました。

